

倫理法人会は、企業をよりよく発展させていくために、「経営者モーニングセミナー」をはじめとする様々な学習と実践の場を提供しています。

縁あつて入会し、モーニングセミナーなどに参加し、学びと実践により会社内における問題を解決して、更なる発展を遂げた人でも、初めから純粋倫理というものが経営に役立つと信じていたわけではないでしょう。

企業経営をよりよくするための学びが巷には溢れています。学ぶ人はそれらの効果への懐疑を少なからず持つものです。どんなに素晴らしい体験談を聞いても、ウチの場合は状況が違つと片付けてしまえばそれまでです。では、学びを活かし、企業をよりよくしていくには、何が大事なのでしょう？

ひとつには「常に挑戦し、豊かな試行錯誤を繰り返しているか」ということです。自分の経験知や知識に安住していると、経営者としての成長は止まり、当然企業も発展しません。問題は、安住していることに気づかないことです。事業を推進していくことは、今までの手法を進めるにしても、新しい道を切り開いていくにしても、思い通りにならないことのほうが遥かに多いでしょう。

その中で、自分の過去の経験則からいったん離れ、試行錯誤を繰り返していると、大事なものに気づく感性が磨かれます。物事の本質を見極める目が養われるのです。

学びを活かしていくために大事な二点目は、「軽やかな行動力」です。学んだことはとりあえずやってみよう、行動に移すことです。また、ここで大切なのは、学んだことが得手であれ苦手であれ、そのままやってみること

純粋倫理を本気で学び 一步を踏み出す



絵・今谷鉄柱

です。

経営者は総じて行動力があります。しかし一歩間違つと、自分の得意なものばかりに走りがちです。それは本当の軽やかな行動力ではなく、自己満足に過ぎません。自分に起こった問題は、往々にして自分が苦手として先送りしてきた結果として起こるのです。

学びを活かすために大事な三点目は、「真摯に本気で取り組むこと」です。モーニングセミナーなどに参加していても、それを付き合いや気の合う仲間との交流の場だけにしている、惜しいのです。毎週モーニングセミナーに同じように参加していても、本気で学んでいる人とは膨大な差が出てしまうでしょう。倫理法人会の三十数年に及ぶ歴史の中で、多くの経営者がその本気の実践で苦難を乗り越え、企業を発展させてきました。自社発展の可否は、本気でやったか、やらなかったか、だけなのです。

今年も残すところ一月となりました。企業を運営していく環境は、ますます混沌の度合いを深め、見通しの利かないものになっています。こうした歴史的な大転換期にあつて、経営者が自らを変革していかなければ生き残ることはできないでしょう。それは、大仕掛けの大それたものではありません。身近な小さな一歩が大切なのです。

「あの時、本気でやっておいてよかった」とは、あるベテラン経営者の言葉です。身近な小さな一歩でも勇気のいることもあります。今こそ、その身体に凛々と勇気をみなぎらせ、純粋倫理という生活法則を存分に活用して、経営者としての自身を磨き上げていこうではありませんか。